

Clinical Research Coordinator (CRC) の キャリア開発にむけての現状と課題 ～やりがい等の意識調査結果より～

○竹下 智恵¹⁾ , 目黒 文江²⁾ , 中尾 貴子³⁾ , 松井いづみ⁴⁾ , 羽田かおる⁵⁾ , 吉井 一恵⁶⁾ , 玖須さつき⁷⁾ , 久部 洋子¹⁾

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター¹⁾

独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター³⁾

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター⁵⁾

独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター²⁾

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター⁴⁾

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター⁶⁾

独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター⁷⁾

背景

平成24年「臨床研究・治験活性化5か年計画2012」が厚生労働省・文部科学省合同で策定され、質の高い医療の提供の実現に向け、より一層の臨床研究・治験を活性化する必要性が示されている。また、CRCを含めた臨床研究・治験に携わる医療関係職種の育成について、目標として挙げられている。臨床研究・治験の実施には、CRCが重要な役割を担っているが、治験を取り巻く環境も変化し、CRCの活用や人材育成には多くの課題が挙げられる。

目的

CRCの役割や業務内容等について現状調査、CRCのやりがい等の意識調査結果より、現状と今後の課題を明らかにする。

本研究は、独立行政法人国立病院機構臨床研究中央倫理審査委員会において承認を受けた。

方法

対象：国立病院機構と臨床・治験活性化協議会参加医療機関に所属するCRC

調査期間：平成26年2月25日～平成26年4月9日

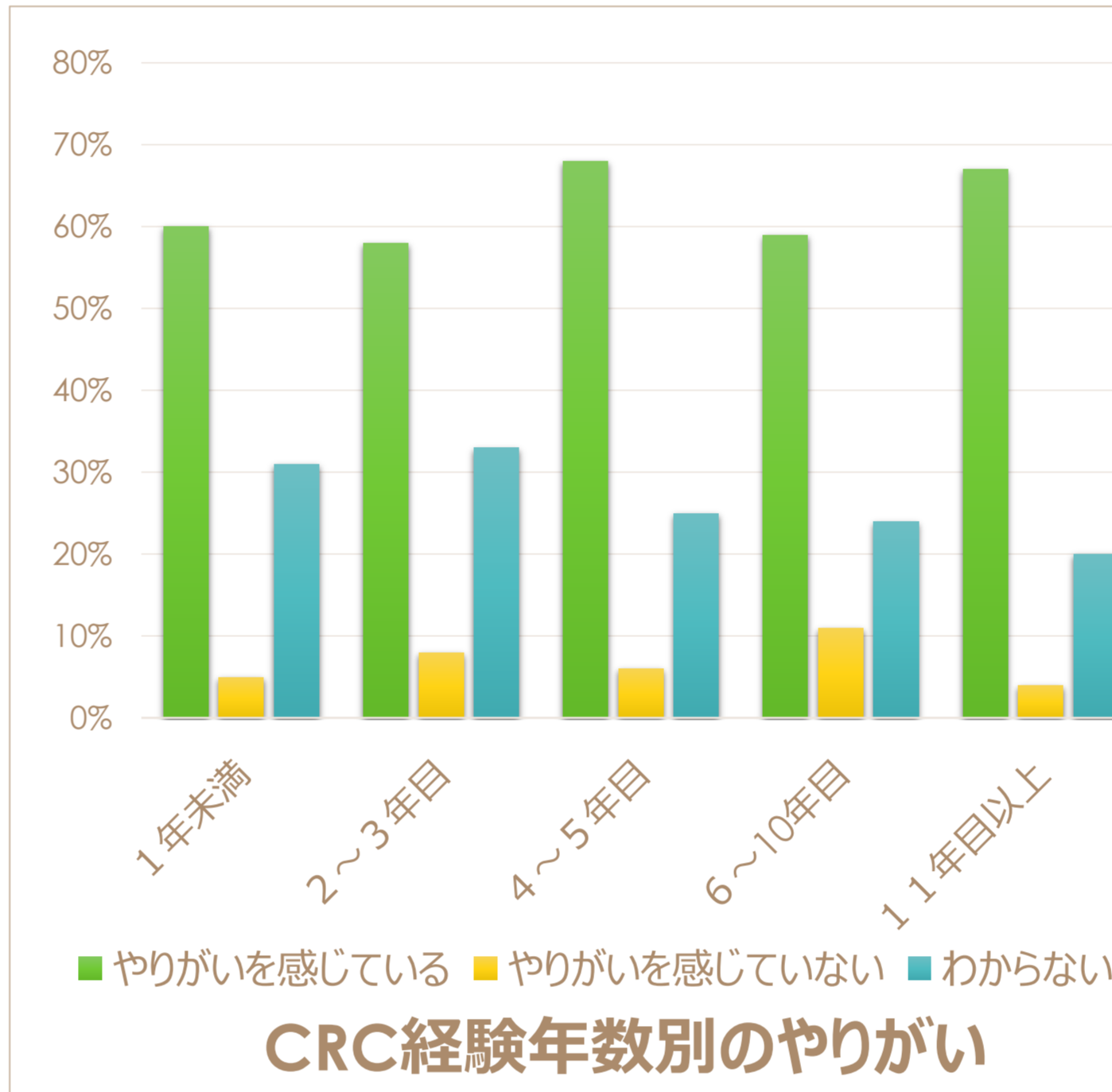
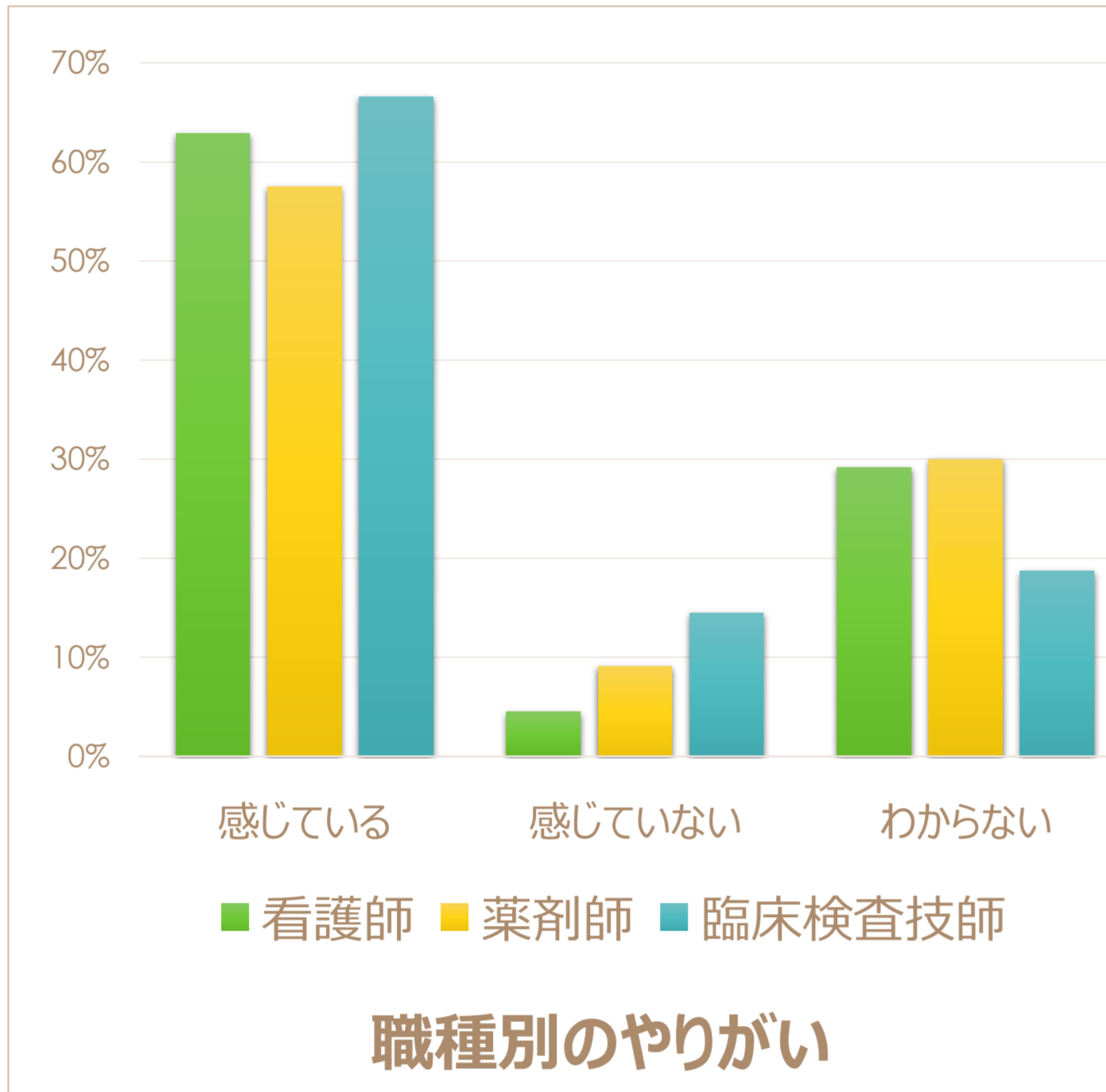
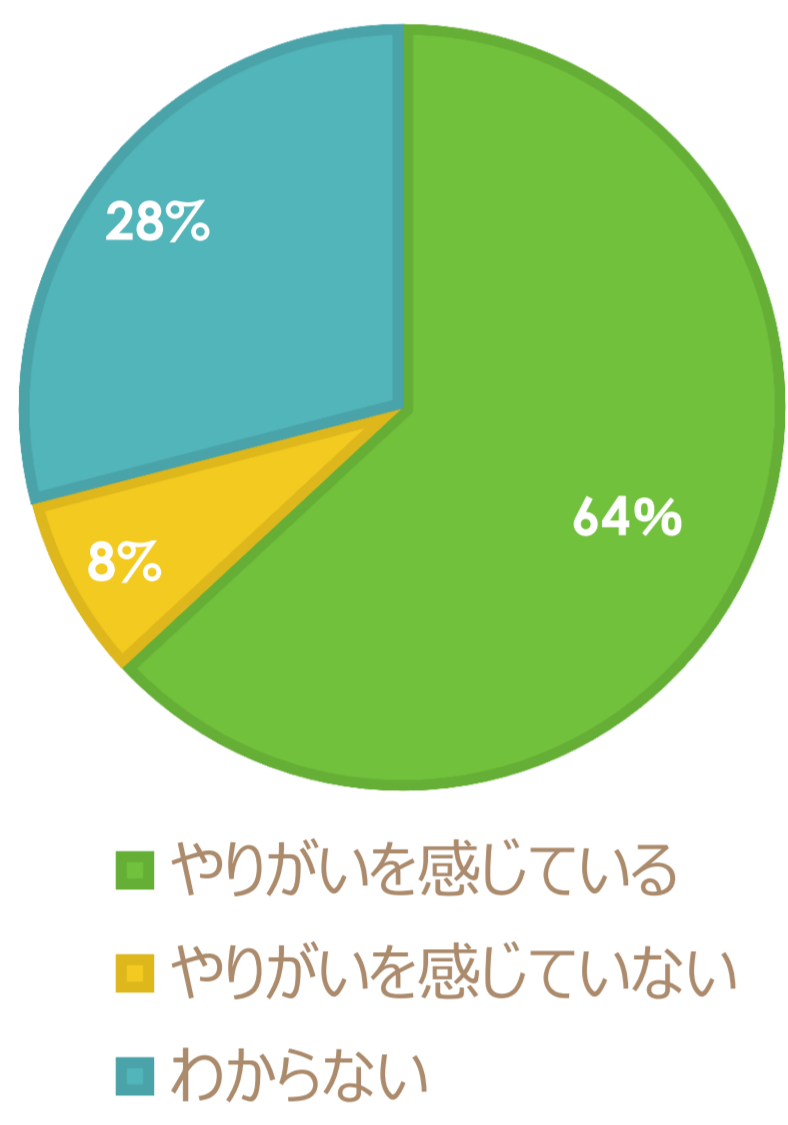
方法：本研究へ参加同意を得たCRCへ自記式質問調査を実施
回答は無記名とした。

結果

546人中、332人より回答を得た（回収率60%）

職種別の内訳：看護師154人、薬剤師120人、臨床検査技師48人、その他6人、無回答4人

CRC全体のやりがい

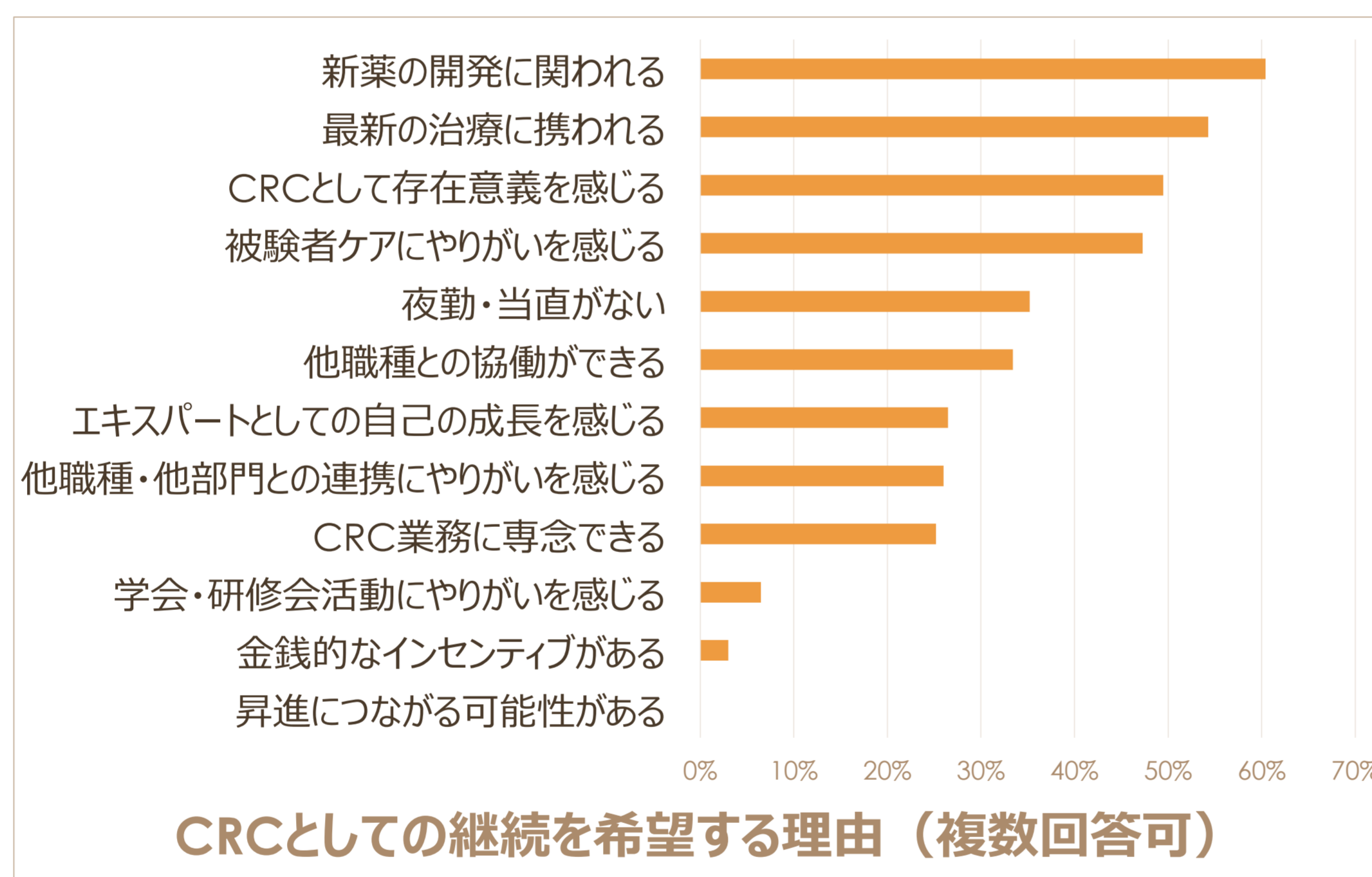
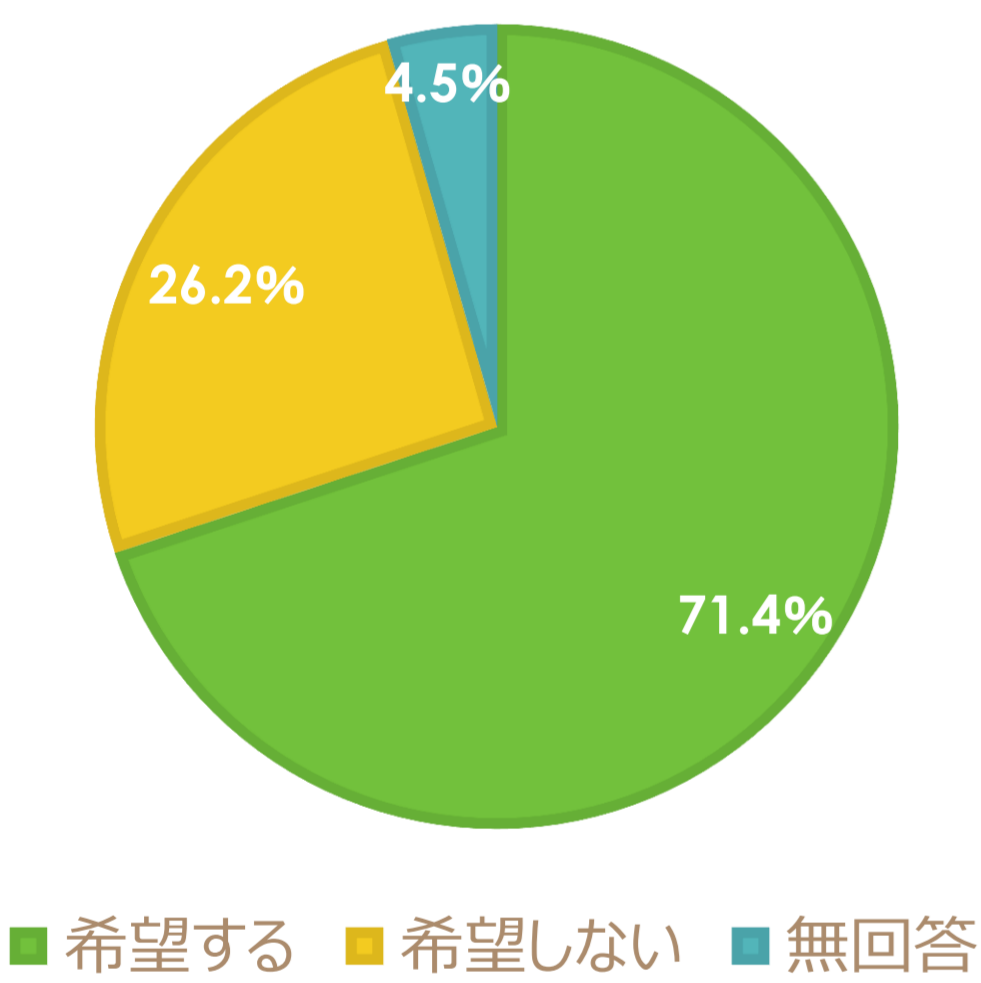


◆全体の約60%はやりがいを「感じている」と回答し、「感じていない」との回答は10%に満たなかった。

◆職種別では、やりがいを「感じている」と回答した割合はあまり差がなかったが、「感じていない」との回答は、看護師が5%以下と最も少なかった。

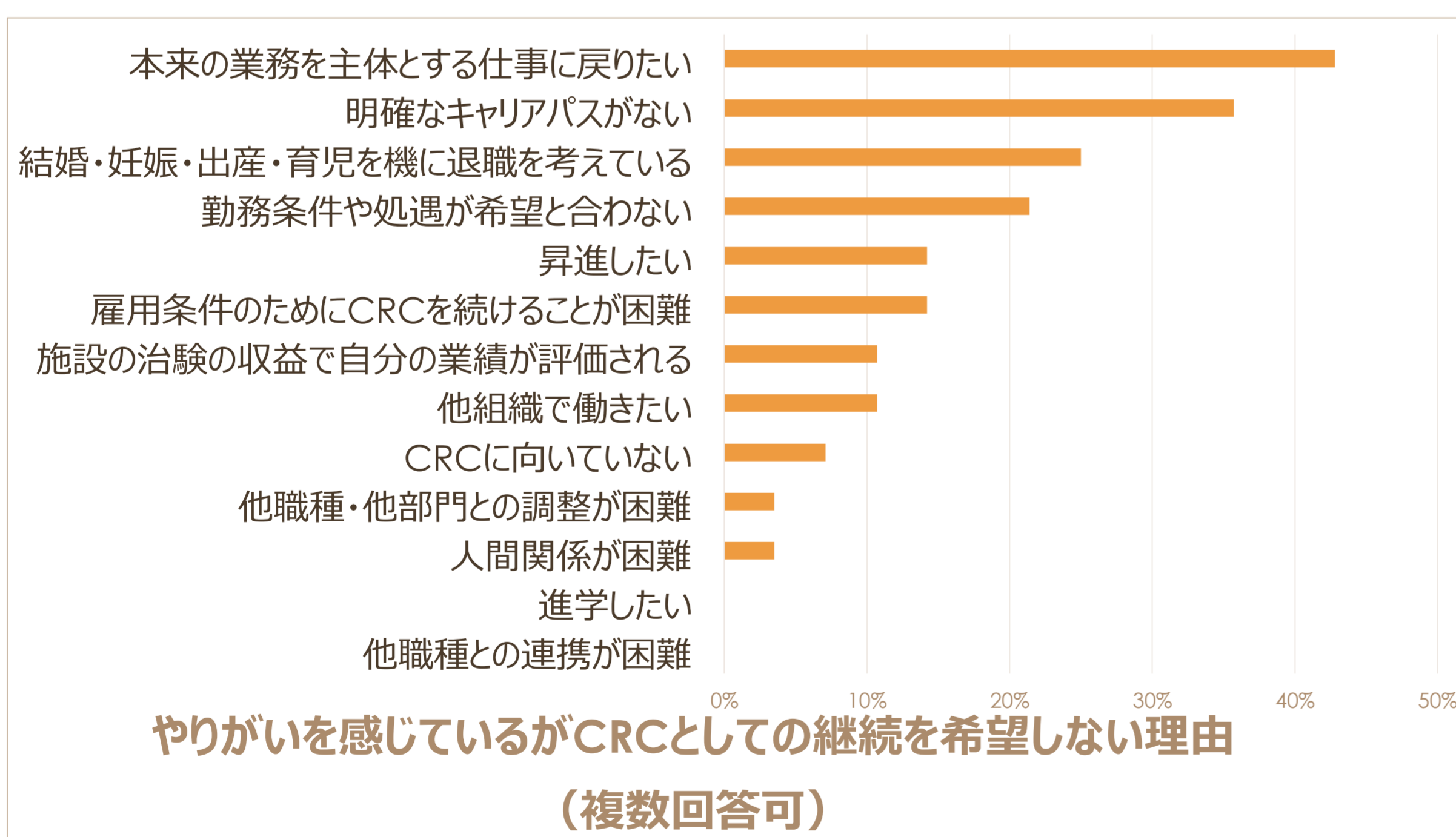
◆CRC経験年数別では、どの経年においても約60%はやりがいを「感じている」と回答し、「わからない」との回答は年数を重ねるにつれ減少傾向にあった。「感じていない」との回答は、全体での結果と同様にどの経年においても10%以下であった。

CRCとしての継続希望



◆CRCとしての継続を「希望する」との回答は全体で71.4%、「希望しない」は26.2%であった。

◆CRCとしての継続を希望する理由として最も多かったのは、「新薬の開発に関われる」60.4%、次いで「最新の治療に携われる」54.3%、「CRCとして存在意義を感じる」49.5%、「被験者ケアにやりがいを感じる」47.3%であった。



◆やりがいを感じているがCRCとしての継続を希望しないと回答した人の理由で、最も多かったのは、「本来の業務を主体とする仕事に戻りたい」42.5%、次いで「明確なキャリアパスがない」35.6%であった。

その他、自由回答として

- ・スキルアップしたい
- ・希望の休みが取れない
- ・業務が煩雑でついていけない
- ・雇用や勤務条件が厳しく続けたくても続けられない 等が挙がっていた。

考察

CRCとしてのやりがいは、勤務形態、職種やCRC経験年数によって差がつくものではなく、自分自身のスキルアップや存在意義であるとする。しかし、業務の煩雑化や各施設における労働条件等によって、CRCを継続したくても続けられないという現状がある。また、明確なキャリアパスがないということも、CRCを継続しない大きな理由として挙がっていた。そのため、各施設におけるCRCという専門職に対する理解と環境改善が必要であり、そして、これらによってCRCのインセンティブを高め、人材確保と専門職としての質的保証につながっていくのではないかと考える。

本演題発表に関連して、開示すべきCOI関係にある企業等はありません。